

自転車ができること、
それは、子どもたちを乗せて
前へ前へと進むこと。

チェーンリングプロジェクトについて

2012年4月30日、石巻で開催されたプロジェクトの報告

自転車を愛する全国のサイクリスト有志による
東日本大震災復興支援プロジェクト



すべての子どもに自転車に乗る楽しみを。
CHAINRING PROJECT
for KIDS



自転車競技のプロ選手に先導され、みんなで一緒に走る練習を行う子どもたちの様子
石巻専修大学第2駐車場会場にて

あれほどの大災害を経験しても、
子どもたちは、そこぬけに明るく、元気いっぱい。
そんな彼らに、自転車は未来への乗りものだと感じて欲しい。
そして近い将来、
自分の足で、自分たちのまちを
力一杯に駆けめぐって欲しい。
もう一度、まちが本当の元気を取り戻すために。



イベント終了後、みんな楽しそうな表情で記念写真。

チェーンリングプロジェクトの初めての開催地は、宮城県石巻市。

2012年4月30日(月祝)、「子どもたちの遊び場を作ろう大作戦!」の最初の取り組みとなるサイクルスクールが、宮城県石巻市の石巻専修大学第2駐車場で開催されました。

今回の目的は、会場となる石巻の子ども達を楽しませることはもちろんですが、活動を通じて被災地の子ども達にとって本当に何が必要なのか、またサイクリストにできることは何なのかを見極めることが重要な課題でした。

ここでは、初の試みとなる石巻でのプロジェクト実現に至るまでの道のりと、当日の様子をレポートします。

開催日時 : 2012年4月30日(月祝) 午後1時~4時
会場 : 石巻専修大学 第2駐車場
参加者 : 石巻市の50名の子どもたち

このプロジェクト携わった人・団体 (順不同)

ウィーラースクールジャパン <http://cyclingschool.jp/>
ピースポート石巻災害ボランティアセンター <http://pbv.or.jp/>
青葉自転車販売株式会社・サイクルプラザ ダイシャリン <http://www.daisharin.co.jp/>
石巻専修大学 <http://www.isenshu-u.ac.jp/general/>
シマノレーシング <http://www.shimanocyclingteam.jp/>
宇都宮ブリツェン <http://www.blitzen.co.jp/>
Team UKYO <http://www.teamukyo.com/cycling>
チームなるしまフレンド <http://www.nalsimafrend.jp/team/>
全国各地から集まったボランティアスタッフのみなさん
全国から差し入れや寄付をしてくださったみなさん



プロジェクトレポート

毎日新聞

(第3種郵便物認可)

現役の自転車競技選手(右端)に教わりながら、八の字ラロームに挑戦する子供ら。石巻市の石巻専修大で

自転車の楽しさ知って

競技選手ら 乗り方指導 被災の子供ら50人に 石巻

東日本大震災で被災した子供たちに自転車の楽しさを知ってもらおうと、石巻市の石巻専修大で30日、自転車の乗り方や交通ルールを学ぶ教室が開かれた。プロの自転車競技選手らが指導し、子供ら約50人が一本橋やスラロームに挑戦した。全国の自転車愛好家で作る支援団体「チェアリングプロジェクト」が、私たちは、ヘルメットや自転車遊びの場を作る手袋を着け、駐車場にごく初めて開催。今後置かれたコーンの間を八の字に通り返けるなどして遊んだ。

津波で自宅が大規模半壊した東松島市の同大職員、猪瀬寿人さん(41)の長男、健斗君(8)は、自転車が流された1年以上乗れなかったといい、「八の字が難しかったけど、久しぶりに乗って楽しかった。自転車で友達の家に行きたい」と笑顔だった。

【金森崇之】



イベントの翌日、毎日新聞宮城版に掲載された記事。当日は多くの地元メディアから関心をよせていただいた。

自転車の良さを活かせる支援のかたちを探して

未曾有の大災害となった東日本大震災。特に津波の被害が大きかった沿岸地域は、あの日から一年以上経った今でもまだ復興のとはば口に立ったところと言っても過言ではない状況です。当時その様子を映像などを通じて見ることしかできなかったわれわれは被災地に対して何が出来るのか。多くの人がその混乱に対し、なすすべもない状況に歯がみしたことと思います。

サイクリストのはしくれとして、自転車を通じて何かできることは無いかを模索しましたが、ニュースなどから知ることの出来る大きな被害を受けた被災地の様子は、とても楽しく自転車に乗るなどということは考えることすら出来ない状況であることは一目瞭然。それでも自分たちが自転車を通じて、日々感じてきた多くの楽しみやそこから得たパワーを、震災で困っている人たちにも感じてもらえないだろうかと考え続けました。

例えば…、これまでわれわれが培ってきた子ども自転車教室のノウハウを被災地の子どもたちの楽しみのために活かさないだろうか。

そんなことを考え、方向性を模索し続けてきたころ、震災当初、現地に飛んで支援活動を行っていた自転車競技者としても活動する加地氏(チームなるしまフレンド)に現地の状況をよく知る石巻災害ボランティアセンターの代表山本氏を紹介いただき、現地の子どもたちの様子を教えていただく機会に恵まれました。



それは、かつて神戸の大震災のその後の状況を知る人間として少し考えればあたりまえの話でした。

家を流された人々の多くは今、仮設住宅に住んでいます。その仮設住宅は、多くの公園や広場を使って建設されています。つまり子どもたちにとっては身体を思い切り動かすことのできる日常的な遊び場が無くなっているのです。

「子どもたちが誰に気兼ねすることなく思い切り身体を動かせる場所、そんな自転車の遊び場をつくろう」

そう思いつくことが出来たのは、実際に被災地へ行き、その土地に立ち、そこで実際に子どもたちの様子を良く知るボランティアセンターの方々の話が聞けたからでした。

自転車というキーワードでつながる人の輪

「自転車の遊び場を作ろう大作戦！」そう命名したこのプロジェクトの最初の取り組み場所として選んだのは、やはり石巻でした。

それは現地での支援の受け皿としてピースボート災害ボランティアセンターの拠点があること、そして当日とそれまでに動く事の出来るスタッフを確保出来ることと、なによりピースボートが今後子どもたちの遊び場に対し定期的に場所を提供して下さる石巻専修大学とのしっかりとしたパイプがあったことも大きな理由の一つでした。(この大学は震災当初、キャンパスをテント村として開放。被災者や災害ボランティアの受け皿となっていました)

その後、この考えを『Chainring Project for KIDS』という目に見える形とし、

「子どもたちに自転車の遊び場を」「まず最初の取り組みは、石巻で」とフェイスブックやツイッター、ブログなどのネットワークを通じて呼びかけたところ、この企画に賛同し協力したいと仲間たちが多くあつまりました。その中には、自転車とはまったく関係の無い人たちも含まれています。

みな、被災地に対し「自分にもなにか出来ないか」と自問してきた人たちでした。

震災から一年以上が経ち、多くの人の関心は薄れてしまっているかもしれないという予想は見事に外れ、むしろこれからが本当の支援であると考える人が多いことに、驚かされると同時に勇気をもらうことになりました。

チェーンリングプロジェクト・フォー・キッズという取り組みは、「自転車を通じて支援を」という気持ちを持った有志が集まった任意のグループでありムーブメントです。みなそれぞれ出来る範囲で小さな事でも良いから同じ目的に向かって力を合わせることで成り立つ支援のかたちです。現地の人、遠く離れた人も、「子どもを自転車で遊ばせる」という目的をただひたすら見つめることで、小さな力を大きなものにすることが可能です。うまく機能すれば本当の意味で息の長い支援になり得る可能性を秘めていると考えます。

まずは石巻で行ったイベントは、これがゴールではありません。

これは、すべてのスタートなのです。

今回の様なスクールを、早々に石巻で毎月にも行えるようにしなくてはなりません。そして石巻をベースに、そこに続く次の場所を見つけ、第二、第三の「遊び場」を作るために動かなくてはなりません。

このプロジェクト遂行のためには、ほんとうに多くの力が必要なのです。



♥ プロジェクトレポート

全国から多くの人々が石巻に集まった



会場となった石巻専修大学第2駐車場。一周約200mの周回が可能

「4月30日午前9時、石巻専修大学集合」

このシンプルな情報のみの告知にもかかわらず、ふたを開ければ30名以上にも及ぶ多くの賛同者が全国各地から会場となる石巻専修大学に集まってくれました。その中には、開催日前日に岩手県八幡平でおこなわれた全日本ロード選手権に出場した、シマノレーシング（大阪府堺市）、宇都宮ブリッツェン（栃木県宇都宮市）、チーム右京（神奈川県相模原市）、チームなるしまフレンド（東京都）の選手達も多数含まれました。彼らは前日、全長250kmというタフなレースを行って現地に駆けつけてくれました。にも

にもかかわらず、疲れも見せず子どもたちのために会場を盛り上げてくれたことは特筆に値すべき事と思います。

午前9時、会場に集合したスタッフはまずそれぞれの自己紹介。その後、今回のプロジェクトの目的や概要を改めて確認し、子どもたちが遊ぶコースなどの準備を行い、遊びのカリキュラムについて簡単に講習会を約2時間たっぷりと行いました。今回参加のロード選手は、もともとウィーラスクール（子ども向け自転車教室）にも参加したことがある選手がほとんどであったため、カリキュラムの内容や進行に関しては慣れた人が多く、本番でも大きな力となりました。



当日朝、全国各地から集まったスタッフでまずは自己紹介から



前日に行われた全日本選手権の後、多くのプロ選手が会場入り

そしていよいよ開催時間の午後1時。ぞくぞくと子どもたちが会場に集まってきます。自分の自転車に乗ってくる子、そうでない子、年齢も学年もばらばらの子どもたち。ヘルメットと手袋を付け、はじめて体験するスポーツ車やマウンテンバイクに目を輝かせながらまたがって、早速選手やスタッフが散らばるいろいろなカリキュラムで遊び始めます。開始早々50名にも及ぶ子どもたちの歓声が桜が満開の会場に響き渡りました。



この石巻のプロジェクトのために多くの志が集まり、自転車 16 台と、練習用の機材一式が石巻に配備されることになった。これにより、定期的な開催のためのハードの整備が出来たことになる



午後 1 時になり、子どもたちが続々集まってきた



レンタル自転車のフィッティング。身体にあった自転車を選びます

ある程度人数が落ち着いたところで一旦子どもたちを 1 箇所に集め、自転車の知識、歴史やヨーロッパの自転車文化、交通ルールやマナーなどをボードを使って解説します。その後、実際に各自に自転車を持たせ、安全のためのメンテナンスの必要性を簡単に説明。いよいよ、いろいろなテクニックの練習の解説に入ります。

まっすぐ走る～停まるや、一本橋、スラロームなど、自転車を安全に走るための基礎技術を遊びながら習得することができるカリキュラムに沿って、子どもたちはプロ選手に優しく指導を受けながらめきめきと上達していきます。



まずは自転車の歴史や、交通ルールとマナーを勉強



まっすぐ走るというカリキュラムで転けないしつこく楽しみを体感



段差ごえにチャレンジ。
路面の急激な変化に対応する技術を身につける遊び。



一本橋に挑戦する子どもたち

被災地に限らず、子どもたちは自転車の基本的な操作技術を学ぶ場をあまり持たないのが現状です。こうした練習を兼ねた遊びの中で、彼らはいざというときのための危機回避技術を習得します。それと同時に、安全に走れることによって、彼らの行動範囲が格段に広がり、子どもたちの体験の可能性を増やすことができます。



体重移動でコントロールする技術を学ぶスラローム



選手に挑戦！ 上手に回れています。



自転車ロード競技のトッププロ選手も、子どもたちと一緒に楽しそうに遊ぶ



補助輪を外して乗れない小さな子はペダルなし自転車で遊べます



選手による集団走行のデモンストレーション



一糸乱れぬ隊列で走りながらも笑顔で余裕のトップ選手の技術は会場をわかせた

津波で流されてしまった子どもたちの自転車

今回、会場に自転車に乗ってこなかった子どもたちが何人かいました。彼らの中には、津波で自転車が流されてしまい、ほぼ一年ぶりに自転車に乗れたと喜ぶ子もいました。自転車を持って来たが調子が悪いと言うことで見てみると、海水に浸かってしまったため、ワイヤーやギアがさび付いてしまって使い物にならない子もいました。仮設住宅のために公園などを使えないことも含め、子どもたちの普段の生活にも、震災の影響は大きいと感じます。



前日の疲労を感じさせず最後まで場を盛り上げてくれた選手たち



大阪のイタリア料理店から子どもたちに差し入れられたお菓子



一列や二列などみんなで一緒に走る経験もします



みんなで走る練習



まわりの人のスピードにあわせて走ることで、周囲のことに気を配る運転が出来る様に練習します。



シーソーを乗り越えるのも楽しい遊び



一周 200m のコースを個人タイムトライアルで楽しめます



補助輪付きのちびっ子もタイムトライアルに挑戦！



ゆっくり走る競争はバランスがポイント



ゆっくり走る競争の応用で、自転車相撲は足をついた人が負け。大人も子どもも一緒に楽しめます

午後4時。たっぷり三時間のプログラムで開催した、被災地で初の「自転車の遊び場」。子どもたちは底抜けに明るく、われわれの予想以上に終始楽しそうに自転車のゲームや練習に取り組んでくれました。

自転車は、自分をどこにでも連れて行ってくれる、子どもからお年寄りまで、誰でも乗ることが出来る乗り物。被災地の子どもたちがもう一度自分達の町を風を切りながら走ることができるその日に向かって、彼らが安心して自転車に思う存分乗れるような遊び場を提供する活動を、石巻を始まりとして、ひとつでも多くの場所に広げていくことは、われわれ大人の責任ではないかと改めて感じるに至りました。（レポート：ブラッキー中島）



自転車ができること、
それは、子どもたちを乗せて
前へ前へと進むこと。

チェーンリングプロジェクトについて
そして、みなさんをお願いしたいこと

自転車を愛する全国のサイクリスト有志による
東日本大震災復興支援プロジェクト



すべての子どもに自転車に乗る楽しみを。
CHAINRING PROJECT
for KIDS



プロジェクトの概要

東日本大震災 被災地支援プロジェクト

CHAINRING PROJECT (チェーンリングプロジェクト) FOR KIDS

※CHAINRING(チェーンリング)：自転車の部品。人間の力を後輪に推進力としてつなげるための構造。「つながり」や「絆」、「前へ進む」意味をイメージする言葉として使う。

子どもたちの遊び場をつくらう！大作戦



このプロジェクトの目的

自転車は単なる移動手段としてではなく、遊びやスポーツ、サイクリングなど様々な楽しみかたの出来る乗り物。動力を使わず、自分の力だけで進む乗り物。そんな自転車の乗り方を学び、遊べる機会を通じて、子どもたちに自分自身の可能性を今よりもっと感じてほしい。特に、東日本大震災の被災地の子どもたちには「自転車を楽しむこと」を通じて、少しでもたくさんの勇気や元気を持つきっかけにできるような、自転車の遊び場をつくりたい。

そんな願いを込めて、全国のサイクリスト有志の力を結集し、被災地、特に津波で被害を受けた地域の子どもたちに対して、誰もが楽しめる自転車教室「ウィーラーズスクール」のノウハウを活用し、彼らが安心して思う存分外で遊べる場を、自転車で実現する様々なネットワークの整備や、この活動を継続していくための基盤をつくることを最終的な目的とします。

遊び場をつないで (Chain)
それを動かす動力となる (Ring) をめざしたい。



自転車を愛するすべての人たちとともに、子どもたちに笑顔をとどけたい。



♥ プロジェクトの具体的な動き - 1



写真はすべて石巻会場の様子

「自転車の遊び場」で被災地を繋ぐ ネットワークをつくります！

公園や運動が出来る場所がすべて仮設住宅でうまっている現状、被災地の子どもたちは日々の遊び場に困っています。そこで企業や大学などから、週末にあまりう使わない広大な場所を借り、完全に交通を遮断した自転車の遊び場をつくり、そこで子どもたちに存分に遊ばせるプログラムを、地域の大人や近隣のサイクリストが中心になって管理できるようなマニュアルの整備、またそれを支援する全国の「ひと」、「もの」、「資金」などを効果的に組み合わせるネットワークの構築をめざします。

「遊び場」のネットワーク実現に必要な要素

1: 子どもたちが安心、安全に走れる場所の確保

先日開催した第1回は、石巻専修大学の駐車場をお借りしました。この会場は石巻の中で最大規模の仮設住宅地に隣接しており、実際に仮設に住む子どもたちにとって参加するための移動が簡単な環境となっています。この例のように、被災各地で子どもたちが居住する地域にほど近い大学や公共機関、企業などに働きかけ、定期的に週末などを使って子どもたちに場所を開放してくださる場所を探します。

2: レンタル自転車の配備 (ヘルメットなども含む)

誰でもどんな子どもでも参加しやすいように、無料レンタルができる自転車や機材を会場ごとに10台以上を目標に配備します。その中に子どもたちがあまり乗る機会のないスポーツタイプの自転車なども用意することで、自転車に乗る興味を喚起させる効果も期待できます。寄付していただいた自転車などはレンタル自転車として管理することで、一人でも多くの子どもに自転車を楽しむ機会を与えることが可能です。

3: 遊び道具の調達と遊び方を教えるマニュアル整備

全国で開催している自転車教室ウィーラーズスクールのカリキュラムを、遊び場の運営に活用します。交通安全のルールやマナー、自転車のメカニックなど自転車に乗るための基礎知識を同時に学ぶことで、子どもたちの普段の乗り物である自転車を頼快適に、そして安全に乗るための知識と技術を習得すると同時に、自転車で遊ぶ楽しさ、スポーツとしての自転車の可能性を感じてもらいます。

使用する自転車の遊び道具(一本橋や、スラロームなど)は、レンタル自転車と共に、各会場に配備します。



♡ プロジェクトの具体的な動き -2

「遊び場」のネットワーク実現に必要な要素

4: 協力者や資金集めなど、 多くの人が参加可能なわかりやすいかたち

この活動を息の長いものにするためにも、広く支援の輪が広がるようなかたちをめざします。

例えば、

**子どもたちに教えられる人やそのために動ける人は「現地」に、
経済的にサポート出来る人は活動のための「資金」を、
アイデアや技術のある人は、それらをまとめられる「しくみ」を。**

このように誰もが自分の出来る範囲で無理のない形で参加出来るようなサポート体制を具体化、実現しようと思います。

いつどこで「遊び場」が行われるのか、そこに何人必要か？ そしてそこにどれだけのものが必要で、その資金は今いくらあるのか？ など、その時に必要な情報が誰にでもわかるようなものが理想です。簡単に言えば、誰にでも公開されているので、言うなれば皆で管理しているイメージです。

**目指すは、これが息の長い支援になること。
そのためにも、無理や無駄を極力省いた、効率的かつ効果的なかたちが望まれます。**

年に一回しか現地に行けない人でも、数百人集まれば年間に必要なスタッフとして大きな力となります。少ない金額でも、毎年少しずつ出せる人が数百人いれば、このプロジェクトを推進する心強く頼もしい力となります。

いつ、どこで、どれだけの人材と費用が必要なのか、それをどうすればよいのかなどの情報が、いつでも誰でも簡単に共有することができれば、小さな力の集積で大きな効果を生み出せるはずと信じます。

**「なにかしたい」という気持ちを
「できる」ことに、マッチングさせること。
それがこのプロジェクト運営の最大のポイントです。**



写真はすべて石巻会場の様子



♥ プロジェクト推進のために



このプロジェクトでは、
下記の項目について協力者を求めています。

駐車場などの広い場所を定期的に無償で貸して下さる企業、各種団体、行政、個人など

一周 300m 程度のトラックコースが確保出来る駐車場、グラウンドなどに子どもたちが使用できる水場、トイレなどが隣接していると大変便利です。機材を保管できる倉庫などもあわせて貸していただければさらに助かります。

被災地近隣でキーステーションとなっただけの方

機材の保管、整備などの管理や現地での人のとりまとめなどが可能な方を募集します。例えば自転車店の方だと機材管理の面からも助かります。

情報を誰もが閲覧出来、共有できるソーシャルネットワークを構築可能な企業、または個人など

刻一刻と更新されるプロジェクトの情報を、インターネット上に掲載しておくためのシステムの構築とサーバ管理、コンテンツ管理などを含む作業を担当していただける方、またシステムハード面でサポートしていただける方を募集します。

現地でボランティアスタッフとして動いていただけの方

現地でのイベントで、子ども達と一緒に遊んでくださる方を募集します。現段階では、現地までの移動費や宿泊費などはすべて自費での参加となります。ご了承ください。
(開催情報などは、随時 WEB サイト等で告知できるような準備を進めます)

**募金、寄付など、活動資金をご協力いただける方
チャリティーなどご協力いただけるイベント主催者の方**

このプロジェクトの大きな目処は、石巻のような会場を 10 箇所以上作ることで、1 箇所あたり 40~50 万円の資金が必要と考えています。そのため資金調達のために、今回暫定的ではありますが、このプロジェクトの銀行口座を作りました。

右記の口座情報をご確認いただき、一人でも多くの方からサポートいただけますようよろしくお願いします。

みなさまからいただいたお志は、100%子ども用自転車もしくは、スクールの機材の準備費にあてる予定です。

写真は石巻会場に寄付された機材の一部
上から、
自転車 16 台、遊具など



このプロジェクトの問い合わせ先



CHAINRING PROJECT for KIDS

チェーンリングプロジェクト・フォー・キッズ 準備室

ウィーラースクールジャパン事務局内

担当：ブラッキー中島隆章

<メールでのお問い合わせ>

info@cyclingschool.jp

<電話でのお問い合わせ>

0771-75-5055 平日 AM9:00~PM5:00

いずれも「チェーンリングプロジェクト係」とお伝えください。

<募金・寄付のお振り込み先>

京都銀行 美山支店 普通 3126277

チェーンリングプロジェクト・フォー・キッズジュンビシツ

※口座名の途中の「・」は中黒ではなく、「.」です。
お間違えの無いようお願いします。





すべての子どもに自転車に乗る楽しみを。
CHAINRING PROJECT
for KIDS

今回、石巻に配備できた機材

26型マウンテンバイク	2台
24型マウンテン	1台
24型マウンテン	1台
20型マウンテン	2台
16型BMX	2台
キックバイク	3台
24型ロードバイク	2台
650Cロードバイク	1台

合計 14台

一本橋	3式
まっすぐ走るシート	5式
シーソー	2式
コーン	90個
段差ごえ	2式

解説ボード

「自転車は未来の乗りもの」1式
(※後日送付)

ヘルメット (今回は間に合いませんでした)

費用総額 496,000円

※スタッフ及び関係者の移動経費などの費用含めず

自転車で遊ぶって、こんなに楽しかったんだ!



一本橋やスラローム、自転車で楽しく遊ぼう!
楽しみながら自転車が上手くなる!



日本でいちばん楽しい自転車教室がやってくる!

ウィーラースクール



すべての子どもに自転車に乗る楽しみを。
CHAINRING PROJECT
for KIDS

みんなで
自転車の遊び場をつくらう!

<主催>チェーンリングプロジェクトforキッズ 全国のサイクリスト有志
ピースポート災害ボランティアセンター

みんながふだん何げなく乗っている自転車は、スポーツや遊びにも使える楽しい乗りもの!
そんな自転車の楽しさをいっぱい集めた「自転車の遊び場」を子ども達とつくります!
今乗っている自転車で、だれでも気軽に参加できるよ!
ここで遊べば、自転車が楽しくなることまちがいない! みんな待ってるよ!

2012年4月30日(月祝)
午後1時スタート

現地集合!

雨天中止

開催の可否のお問い合わせは
下記電話番号までお問い合わせください

会場：石巻専修大学第一駐車場

〒986-0031 宮城県石巻市南境新水戸1

参加対象：小学生以下の子どもたち（補助輪つきでも参加できます）
※中学生でも参加できます。気軽に遊びに来てね。

持ってくるもの：自転車、飲みもの

※数に限りがありますが、自転車とヘルメットなどは無料レンタルがあります

参加費無料

問い合わせ：0771-75-5055 (事務局)
info@cyclingschool.jp